

第6回内子町議会議員研修会

1月25日、内子町議会議員17人が出席し「第6回内子町議会議員研修会」を開きました。

今回は、産業建設常任委員会の主宰で、上芳我家住宅改修現場、内山病院跡地、病院誘致予定地、龍王再開発現場の4箇所を視察し、町の担当職員から説明を受けながら研修を行いました。

内山病院跡地と病院誘致予定地の視察・見学

産業建設常任委員 林 博

全国的に医師不足が問題になり、診療に支障が生じる病院が多くなっています。内山病院も医師の確保が困難ということで、20年5月31日をもって廃止されました。病院施設は同年12月までに取り壊しが行われ、用地は更地にして町に返還されています。

現在、3千500平方メートル余りの跡地は、上芳我家改修事業の資材置き場として一部利用されています。適正に管理されていますが、更地となって1年以上が経過しまし

た。新たな場所への病院誘致が決定したのですから、町民の皆さんの意見を求めながら、今後の利用方法について検討すべきだと考えます。

内山病院の廃止や済生会小田病院の有床診療所化によって、町内から病院が消滅するという事態の中で、医療環境の整備は内子町の最大の課題でした。この間、町長をはじめ町民こそっての病院誘致への熱い思いが、今回の加戸病院の内子町移転に結びついたのではないかと考えます。

20年度にも加戸病院の誘致協議が行われましたが、用地などいくつかの問題のために合意に至ることができませんでした。しかし昨年7月から、旧内子町内に内山病院跡地より

広い土地を確保することを前提に協議が進められています。

内子町としては、前回同様の財政的支援と、新たに病院用地の確保が必要となりますが、病院誘致事業は町の最優先課題の一つに位置付けられており、安心して生活できるまちづくりのために大切なことです。

現在、用地の確保に向けて、地権者の皆さんとの交渉が進められているところですが、関係者のご理解とご協力をいただき、予定されている24年には開設できることを望んでいます。

上芳我家改修および龍王再開発事業研修の報告

産業建設常任委員 才野 俊夫

上芳我家住宅保存修理事業

最初に、八日市・護国町並保存地区にある上芳我家住宅保存修理事業の現状を視察しました。

重要文化財「上芳我家住宅」は、20年7月～今年12月までの予定で、主屋ほか9棟の保存修理工事が現在進められています。事業費は3億2千万円。財源の内訳は国費65割、県費11.7割、町費23.3割です。当初の予定では、23年4月から一般公開される見込みでしたが、今回



フィットネスクラブRYUOWの25mプール

プンしました。25mプールやジム、フィットネスタジアムなどを備えています。現在、会員の募集などが始まっています。

龍王再開発事業の主な施設の事業費は、約7億9千万円が見込まれています。財源の内訳は、国費が1億6千6百万円(21.1割)、町の起債が2億3千300万円(29.6割)、町の単独予算が2千万円(2.5割)です。なおフィットネスクラブRYUOWの事業費3億6千8百万円(46.8割)は、事業者である(株)新風会が負担します。

そのほか、従来の内子共同福祉施設は、「オーベルジュ内子別館」として有効活用される予定です。4月末に全施設がオープンされる

の視察研修で、建物の腐朽(腐って崩れること)や白アリの被害が予想以上に進行しているため、修理範囲の拡大や修理方針の変更が必要となること、また、文化庁の指導で防災安全性の向上や耐震補強工事などが追加されることから、事業費の増額と工期延長が予想されるとの説明を受けました。

なお、修理工事には内子町内の業者(大工・左官・瓦職人など)が多数携わり、資材もできるだけ町内から調達して、伝統的建造物の技術を伝承していると聞き、町内の職人の皆さんの技術力の高さに深く感銘しました。明治中期といわれる建築当初の勇姿に復原される日を心待ちにしています。



上芳我家主屋内の修理現場を視察

と、これまでの龍王公園の面影が一変することでしょう。ペレットボイラーやソーラーパネルの利用で、地球温暖化防止に配慮した環境に優しい施設となっています。町内外の皆さんに喜ばれる憩いの場所として利用されることを期待します。

一方、気がかりな点としては、予定されている駐車場の位置と広さの問題があります。

高齢者や幼い子ども連れの家族にとっては、駐車場から遊具施設などへの距離が従来に比べて遠くなっています。また、各施設に大勢の利用者が集まったときには、駐車場のスペースが足りなくなる恐れがあります。将来を予測した、早期の対応を希望します。



宿泊施設「オーベルジュ内子」の建設現場



瓦1枚、柱1本まで、できる限り補修して再利用

修理後の上芳我家の活用は、大学教授など4人の学識者と町内の代表者6人、県の担当者1人、合計11人からなる「保存活用検討委員会」で協議が重ねられています。内子町の「宝」として、「木蝨商家の歴史」が一日で学べる施設になることを期待します。

町内には、内子地区に「町家資料館」「商いと暮らし博物館」、五十崎地区に「風博物館」「歴史民俗資料館」、小田地区に「郷土資料館」などがあり、数多くの貴重な歴史民俗資料などが納められています。

上芳我家内の「木蝨資料館」の隣にある「収蔵庫」には、国指定有形民俗文化財(内子町および周辺地域の製蠟燭用具1千444点)が保存

されています。今後これらの貴重な遺産を保存し、有効活用するためにも、専門職の学芸員を採用して町内の歴史民俗資料などを研究し、町民へ公開していくことが急務であると感じました。

龍王再開発事業

龍王公園内では、農産物の販売などを行う施設「マルシェ内子」が、3月から土・日に限って軽食などの一部営業を始めます。

マルシェ内子と共にオリエントホテル高知(株)が運営する温浴施設(大衆浴場)やレストラン、宿泊施設の「オーベルジュ内子」は、ゴールデンウィーク前の開業を目指して、現在、工事が急ピッチで進められています。

以前のアスレチック広場は、「冒險広場」として全面に芝生が張られ、児童向けの遊具も入る予定です。龍王球場の周りは、一周400m、幅3mのジョギングコースとして整備されます。

球場奥の斜面には、新たに「ちびっ子ゲレンデ」として人工芝そり場が整備され、既設の「ローラー式滑り台」とつながります。これら各施設のオープンも4月下旬の予定です。

また、2月から、健康増進施設として(株)新風会が運営する「フィットネスクラブRYUOW」がオー

※オーベルジュ=主に郊外や地方にある宿泊設備を備えたレストラン。フランスが発祥